

第3 豚

2章 豚の周産期飼養管理マニュアル

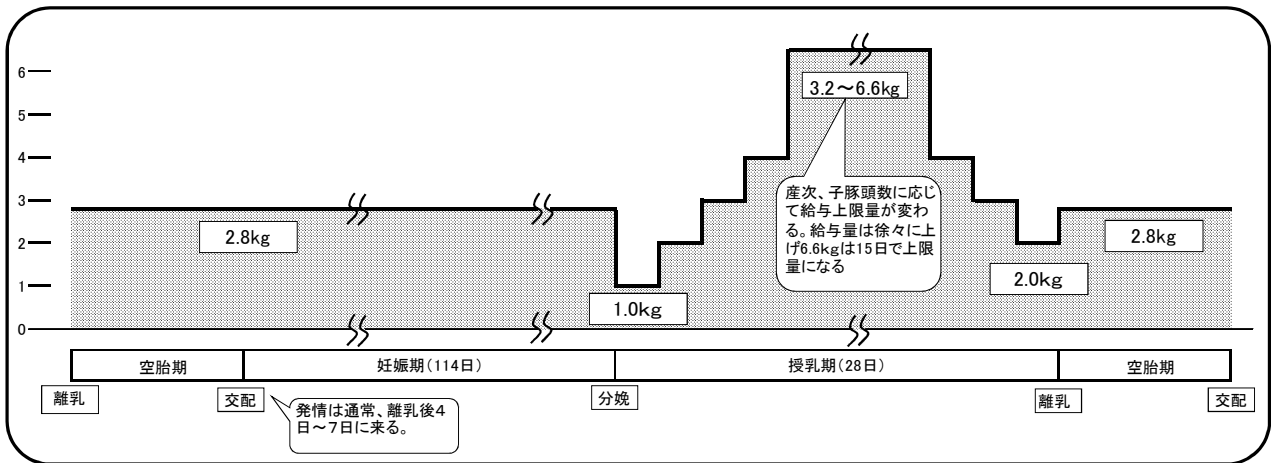
長野県の養豚経営の雌繁殖の目標としては、長野県経営指標（H21年度）では120頭母豚規模において繁殖豚3年6産、母豚1頭当たり年間出荷頭数：22頭、母豚年間平均分娩回数：2.2回、離乳時育成率：93%となっています。母豚1頭当たり年間出荷頭数を多くすることが農家の収益につながります。このことから①交配時の排卵数を確保し産子数を多くする②離乳から交配までの空胎期間を最小限にする③分娩まで離乳までの飼養管理により多く子豚を離乳させるなどの技術が必要になってきます。ここでは基本飼養管理について記述します。

1 妊娠期の管理

(1) 飼料給与

日本飼養標準豚（2005年版）において妊娠豚養分要求量の飼料成分値は、粗蛋白質（CP）12.5%、TDN70%となっているが、市販配合飼料ではCP13.5～15.0%、TDNは70～74%と養分含量にも幅があり、妊娠期間もがないため飼料の選択や切替は慎重にし、給与量は豚の状態をみながら調整する必要があります。妊娠後期は胎児が大きくなる時期ではありますが、増給による胎児への影響は少ないため、ボデーコンディション3～3.5を維持します。

繁殖種雌の飼料給与例



(2) 飼養管理

○繁殖豚 20～23℃が適温とされ、これより気温が低いと飼料エネルギーが体温維持に利用されるため、飼料を増やす必要があります。気温が5度下がるごとに飼料を約0.4kg増やす必要があります。



群飼による飼料給与

2 分娩前後の管理

(1) 分娩準備

- 分娩房を水洗いし乾燥させ消毒を実施します。
- 給水施設の点検を実施し確実に水が飲めるようにします。
- 母豚の移動は分娩予定1週間前に実施します。



分娩の準備

(2) 分娩後

- 分娩後は母豚の状態をよく観察し、飼料摂取・飲水状況および体温などを観察し、異常がある場合は速やかに対処することが重要です。子豚の発育に大きく影響します。

3 授乳期の管理

(1) 飼料給与

- 分娩後は徐々に給与量を増やし、15日間かけて上限給与量までにします。給与量は産次および産子数によって給与が変わります。
- 飼料が不足すると痩せていきますので増やしてやる必要があります。
- 食い込みが悪い場合は、給与回数を増やす対策や飼料に水を加えて練り餌にして摂取させます。



授乳中の様子

4 離乳から交配までの管理

(1) 飼料給与

- 離乳の3日前から給与量を減らし離乳日は2kg程度とする。
- 排卵数を多くするために離乳翌日から交配まで飼料給与量を3.5～4kgまで増やします。

(2) 飼養管理

- 離乳後群飼による管理をする場合は、喧嘩などで交配時期にストレスを受け受胎率が低下する場合がありますので注意します。

授乳母豚飼料給与基準

分娩後日数	給与量		摘要
0	1.0		分娩・哺乳開始
1	1.5		
2	2.0		
3	2.5		
4	3.0		
5	3.5		
6	4.0	別表の給与量上限まで増やす	
7	4.0		子豚体重測定
8	4.5		
9	5.0		
10	5.0		餌付け
11	5.5		
12	6.0		
13	6.0		
14	6.5		子豚体重測定
15	6.6		
16	〃		
17	〃		
18	〃		
19	〃		
20	〃		
21	〃	子豚体重測定	
22	〃		
23	〃		
24	〃		
25	〃		
26	4.0(上限量)		
27	3.0		
28	2.0		子豚体重測定

給与量上限

産次	子豚数			
	≤5	6	7	8
初産(165kg)	3.2	3.4	3.8	4.2
2産(185kg)	3.8	4.1	4.5	5.0
3産(200kg)	3.9	4.2	4.6	5.1
4産(215kg)	4.0	4.3	4.7	5.2
5産(225kg)	4.1	4.4	4.8	5.3
6産(230kg)	4.2	4.4	4.8	5.3

産次	子豚数			
	9	10	11	12≤
初産(165kg)	4.5	4.8	5.1	5.4
2産(185kg)	5.2	5.6	6.0	6.3
3産(200kg)	5.4	5.7	6.1	6.4
4産(215kg)	5.5	5.8	6.2	6.5
5産(225kg)	5.5	5.8	6.3	6.5
6産(230kg)	5.6	5.9	6.3	6.6

給与量は日本飼養標準（豚）2005年版養分要求量プログラムにより TDN 充足率 110%で算出。

(平成 23 年 5 月)

